



# 学校だより

7月号

令和4年6月30日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



## 「聴く力」

学校長 後藤 直樹

校庭に全校児童を集めて朝会ができる機会も増えてきました。私はコロナ禍での着任から2年目ですので、当初の朝会や集会はほぼ毎回テレビ放送でした。初めて一度に全校児童の顔を見ることができたのは、避難訓練の場面だったことを記憶しています。さて、一堂に集まった相武山の子どもたちを見て感じたこと、それは両側に並ぶ上級生の姿勢の良さと集中力の高さです。しっかり静止しており、台の上からでも全員の視線を感じることができます。全員の体が静止とまではいかないものの、講話の中での問いかけに大きな声で返事をしてくれるのは中心に並ぶ1・2年生です。対面で話せることの素晴らしさや大切さをこんな場面でも実感しています。現在、様々な会議や集まりが書面やリモートから、集合の形に戻りつつありますが、今後はそれぞれのメリットを活かしながら、うまく組み合わせていくことが大切だと考えています。

ところで、「対話的で深い学び」につながる大切な要素がこの「話を聴く力」だと考えています。「聴く」という漢字は、「耳」と「目」と「心」でできています。子どもたちに集中力の話をするときによく引用します。辞書には、「聞く」は（耳で音や声を感じること）、「聴く」は（耳を傾け、注意して聞き取ること）とあります。対話の中で必要とされるのは、まさにこの「聴く力」であり、求められているのは、さらにその内容を加味しながら自身の考えを練り上げていく力です。これからも、すでに多くの子どもたちの中に習慣として根付いている「聴く姿勢」を大切にしながら、さらに深い学びにつながる対話的な能力として高めていきたいと考えています。

先日、3年ぶりの水泳学習が始まりました。もちろんマスクを外しての授業ですので、子どもたちは会話をしない、適切な距離をとるなどの約束を守りながらでしたが、それぞれの目標に向けて楽しそうに活動していました。水音が邪魔をして聞き取りにくい環境の中でも、しっかりと教師の目を見て指示を聴こうとする子どもたちの姿をここでも見ることができました。



4年生 水泳学習